川崎市社会福祉協議会　ボランティア活動振興センター

地域福祉情報バンク通信

2024年 冬号
季刊（№61）

発行：川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター 地域福祉情報バンク
川崎市中原区上小田中6-22-5　川崎市総合福祉センター 6階
電話：044-739-8720／FAX：044-739-8739／E-mail：jyoho@csw-kawasaki.or.jp

2024年冬号の内容は…

★令和6年度福祉基金助成金・電話相談実務者研修について
★「グリーフケア」に関する図書の紹介
★ふくみみ登録団体「ふれあい手話サークル」の紹介
★新着図書&DVDの紹介

…など、今号も情報満載でお届けします！

令和6年度「福祉基金助成金」申請団体を募集します

川崎市社会福祉協議会では、互いに助け合い、支え合うことができる地域づくりを目指し、その役割を担う団体を育成、支援することを目的に助成事業を実施します。現在の活動をさらに発展させたい場合や、団体立ち上げのスタートアップにご活用ください。福祉の活動に携わる団体・グループを応援します！

・スタートアップ　… 最大３０万円
・活動をさらに発展 … 最大５０万円
（複数年度で最大１００万円）

［対象事業］
■川崎市の地域住民のために行う事業であること
■実施事業が地域福祉のすそ野を広げるものであること
例えば、次のような活動が対象になります。
◇広く地域に福祉教育を進めるための取組み
◇施設と地域の交流事業
◇高齢者や障害者の生活実態調査
◇引きこもり児童を抱える家庭への訪問、傾聴活動　等
◇多世代交流のための事業
◇障害者理解のための市民向け講座の開催
◇困窮家庭への支援のための事業

詳しくは「川崎市社会福祉協議会福祉基金助成事業　令和6年度募集要項」をご確認ください。
募集要項は川崎市社会福祉協議会・各区社会福祉協議会の窓口等で配布しています。

申込締切：令和６年１月３１日（水）（当日消印有効）

●お問合せはこちらまで…
川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター
Tel：044-739-8718／ E-mail：v-center@csw-kawasaki.or.jp

市社協キャラクター
ななふく

福祉基金助成金は
こちらから

「電話相談実務者研修」を開催します！

今年も杉山雅宏先生（東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科教授）を講師に迎え、電話相談実務者研修を開催します。テーマは「聴く力を養う～電話相談の専門性～」電話相談に焦点を当て、職員の対応技術向上を目的とした研修です。電話相談の役割、対応の基本姿勢、相談員が苦慮しがちな電話への基本対応などについて一緒に学びませんか？「先生のお話がとてもわかりやすく楽しい研修だった」「多くの学びがあったので、また参加したい」などの感想が寄せられる、毎年大人気の研修です。ぜひご参加ください。

日時：令和６年３月１２日（火）１３:３０～１６:００
場所：川崎市社会福祉協議会（エポックなかはら６階 研修室）

●お問合せはこちらまで…
川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター 地域福祉情報バンク
Tel：044-739-8720／ E-mail：jyoho@csw-kawasaki.or.jp

川崎市社協　HP

申し込み開始は２月中旬を予定。詳しくはHPに掲載します。

特集 グリーフケアに関する図書の紹介

～地域福祉情報バンクで貸出しています～

「グリーフ（grief）」という言葉をご存知ですか？ 日本語では「悲嘆」と訳され、 愛する家族や親しい友など大切な人を亡くした後に体験する、精神的にも身体的にも不安定な状態のことを指します。
「グリーフケア」とは、このような状態にある人に寄り添い、悲しみからの立ち直りを支援することです。 喪失を受け入れるためには、ショック期→喪失期→閉じこもり期→再生期など、いくつかの段階があり、その悲しみのプロセスを行きつ戻りつしながら回復へと向かうと言われています。
　大切な人を亡くした時に、自分にどのようなことが起こるのか…
また、大切な人を亡くした人に対して、どのように接したら良いのか…
今回ご紹介する本を読んで一緒に考えてみませんか？

はじめて学ぶグリーフケア　第2版

日本グリーフケア協会の要職である著者の解説を通じて、グリーフケアの現状や、よりよいグリーフケアのための実践法をわかりやすく指南します。
看護師、介護士をはじめ、遺族を支えるすべての職種の方が、はじめてグリーフケアを学ぶための最適な1冊です。
（宮林幸江、関本昭治:著/日本看護協会出版会/2022年発行）

大切な人を亡くした人の気持ちがわかる本

グリーフにある人の心理や情動の変遷を理解するとともに、より相手の負担とならない関わり方、コミュニケーションへの考え方を紹介します。死別後、どのような反応が現れるのか、どのように受容していけるのか、道筋を知ることで、グリーフにある人の心の負担を軽くし、適切な接し方が見出せるようになります。
（髙橋聡美:著/法研/2022年発行）

大切な人を亡くしたあなたに知っておいてほしい5つのこと

家族、パートナー、友人、ペット…。旅立ちを見送る人が心の痛みを手放し、やがて再生へ向かう日のために…。紙面上で再現している「グリーフサロン」に参加しながら、哀しみを和らげるために大切なことを一緒に考えてみませんか？
（井手敏郎:著/自由国民社/2020年発行）

失恋、離婚、死別の処方箋 別れに苦しむ、あなたへ。

死別でパートナーを失い、自らも心身のバランスを崩しかけた精神科医が、自分の人生を取り戻し、幸せを実感できるようになるまでのプロセスを綴ります。
知識として「立ち直りの過程」を知っておくことが、苦しみの渦中では救いとなります。
（精神科医Tomy:著/CCCメディアハウス/2020年発行）

大切な人が死ぬとき 私の後悔を緩和ケアナースに相談してみた

大切な人を看取った後「もっとできることがあったのでは…」という後悔と罪悪感が残る。
緩和ケアナースに相談してわかったことは、大切な人が、残された時間を「どう生きたいか」を知ることだった。
（水谷緑:著/竹書房/2020年発行）

関連図書

●愛する人を亡くしたあなたへ～愛を知るための本
（Ray:著/Clover出版/2023年発行）

●悲しみとともにどう生きるか
（柳田邦男、若松英輔、星野智幸、東畑開人、平野啓一郎、島薗進、入江杏:著/集英社/2020年発行）

●グリーフケアに学ぶ、深い悲しみの癒やし方 愛する人を失ったときあなたに起こること
（松家かおり:著/日貿出版社/2018年発行）

かわさき福祉情報サイト ふくみみ登録団体紹介 第10弾

ふれあい手話サークル（川崎区）

「ふれあい手話サークル」は、川崎区桜本の「ふれあい館」で手話入門講座を受けたメンバーが立ち上げ、今年で39年目になります。現在のメンバーは経験者が多く、ろう者・健聴者ともに在籍30年という方も!!
毎週火曜日の夜に、ミューザ川崎または福祉パルかわさきで活動しています。
今回は手話学習会を見学させていただき、代表の方にお話を伺いました。

サークルではどのような活動をしていますか？

主な活動は週1回の手話学習会ですが、年に数回レクリエーションをしながら交流会なども行っています。
また、地域でのボランティア活動として小学校での手話教室・区社協での手話通訳・南部身体障害者福祉会館でのお手伝いなども長年続けています。

どのように手話を学んでいますか？

一人ずつ「音声情報（手話をする人とは別の人が読む文章やボイスレコーダーに吹き込んだ声など）」を聞きながら手話で表現し、ろう者の方にアドバイスをもらいます。どのように表現したらより伝わりやすいか、皆で意見を出し合い、ろう者の方に手本を示してもらいながら学んでいます。見ているだけではなく、実際に手を動かし繰り返しやることが大事です。コロナ禍で会場が使えない時期も活動は休止せず、ZOOMで学習を続けていました。

分かる・知っている

おすすめの手話の学び方を教えてください

実際にろう者の方に会い、お互いに会話（学習）することで上達への近道となります。簡単な会話であれば、2～3ヵ月である程度のコミュニケーションが取れるようになりますよ。
サークルに入るのはハードルが高いと感じる方は、まずは、手話入門講座を受けてみてはいかがでしょうか？
（川崎区では南部身体障害者福祉会館で2月に実施予定です）

どのようなメンバーで活動をしていますか？

手話でコミュニケーションを取りたい・仕事で使いたい・手話通訳士を目指しているなど、学ぶ理由は様々ですが、ほとんどのメンバーが仕事をしながら活動を続けています。

仲間

手話の難しさは？

手話には、幼いころから聞こえない方が使う「日本手話」と、中途失聴や難聴者の方が使う「日本語対応手話」があります。「日本手話」は、日本語と語順や文法が違うため難しく感じるかもしれませんが、サークルでは、ろう者の方にとってより理解しやすい「日本手話」を使うようにしています。

手話にも地域によって方言があり、同じ意味でも色々な手話表現があります。最初は戸惑うことがあるかもしれませんが、徐々に話の流れや口の形・顔の表情などから相手の言いたいことを読み取ることができるようになります。

どのような時にやりがいを感じますか？

最初はなかなか難しくても、手話でろう者の方とコミュニケーションが取れた時です。
また、手話サークルを通じて共通の話ができる友人ができた時も、やっていて良かったと感じます。

楽しい

「ふれあい手話サークル」に参加したい方は？

川崎区社会福祉協議会が問合せ窓口になっています。ご連絡の上、ぜひ一度見学にお越しください。
活動日は毎週火曜日19:00～20:30です。
お待ちしています！

問合せ先

ふれあい手話サークル

川崎区社会福祉協議会へお問い合わせください
川崎区富士見1-6-3 読売川崎富士見ビルB-1棟 6階
TEL:044-246-5500

川崎市内の手話サークル情報は、かわさき福祉情報サイト「ふくみみ」のHPをチェックしてね！

ふくみみHP

新着図書&DVDの紹介

【図書】（書名／著者・編者名／出版社）

●ビジネスケアラー 働きながら親の介護をする人たち／酒井穣／ディスカヴァー・トゥエンティワン

●弱さを愛せる社会へ 分断の時代を超える「令和の幸福論」／野澤和弘／中央法規出版

●介護職が知っておきたい「ほんとうの自立支援」がわかる本／山出貴宏／中央法規出版

●よるべない100人のそばに居る。＜救護施設ひのたに園＞とぼく／御代田太一／河出書房新社

●福祉って本当にこれでいいの？「自立や成長」「知識や技術」だけが支援なのか／金原知宏／みらいパブリッシング

●母がゼロになるまで 介護ではなく手助けをした2年間のはなし／リー・アンダーツ／河出書房新社

●「おひとりさまの老後」が危ない！ 介護の転換期に立ち向かう／上野千鶴子、髙口光子／集英社

●仕事は辞めない！ 働くX介護 両立の教科書／木場猛、佐々木裕子／日経BP

●子どもを信じること／田中茂樹／さいはて社

●去られるためにそこにいる 子育てに悩む親との心理臨床／田中茂樹／日本評論社

●ピンヒールで車椅子を押す「自分をあきらめたくない」人に贈るとある親子の物語／畠山織恵／すばる舎

●特別支援が必要な子どもの「就労」「進学」「進路」相談室／山内康彦／WAVE出版

●強度行動障害のある人を支えるヒントとアイデア／西田武志、福島龍三郎／中央法規出版

●ぼくは耳が聞こえない それでも妻と一緒に住んだら人生幸せになった話／みゆみゆチャンネル／KADOKAWA

●なわとび跳べないぶきっちょくん ただの運動オンチだと思ったら、DCD（発達性協調運動障害）でした！／オチョのうつつ、古荘純一／合同出版

●押さえておきたい 地域福祉・社会福祉協議会／菅野道生／ぎょうせい

●社協転生 社協は生まれ変われるのか／塚口伍喜夫、山本正幸、佐藤寿一、小林茂、川﨑順子、荻田藍子、西村禮治／大学教育出版

●すぐに使える！ケアマネ実務の道具箱／神奈川県介護支援専門員協会／中央法規出版

●ギフテッドの光と影 知能が高すぎて生きづらい人たち／／阿部朋美、伊藤和行／朝日新聞出版

●学校に行けない子どもの気持ちがわかる本／今野陽悦／WAVE出版

●NPOカタリバがみんなと作った 不登校 親子のための教科書／今村久美／ダイヤモンド社

●子どもが起きない！／渡辺正樹／主婦の友社

●大丈夫、私を生きる。／山川記代香／集英社

●ふつうの相談／東畑開人／金剛出版

●最新図解 よくわかる発達心理学／林洋一／ナツメ社

●飽きっぽいから、愛っぽい／岸田奈美／講談社

●ポンコツ一家／にしおかすみこ／講談社

●経営破綻寸前の病院が大感動を売ってみたら大人気になった件について／大河内昌弘／フローラル出版

●フィンランド 幸せのメソッド／堀内都喜子／集英社

●88歳、しあわせデジタル生活 もっと仲良くなるヒント、教えます／若宮正子／中央公論新社

【福祉・医療系マンガ】（書名／著者／出版社）

●コウノドリ（1）～（32）／鈴ノ木ユウ／講談社

●19番目のカルテ 徳重晃の問診（8）／富士屋カツヒト、川下剛史／コアミックス

●健康で文化的な最低限度の生活（12）／柏木ハルコ／小学館

●リエゾン こどものこころ診療所（14）／ヨンチャン、竹村優作／講談社

地域福祉情報バンクは、平日8：30～17：00まで開所しております。毎月第4水曜日は、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）の保守点検日のため、17：00以降に1階受付窓口での図書・DVDの返却ができませんのでご注意ください。

昨年５月より、図書・DVDの返却が各区社会福祉協議会でもできるようになりました。今まで、返しに行くのが大変で借りることを躊躇されていた方も今後はぜひご利用ください。「地域福祉情報バンク通信」についてのご意見・ご感想、図書のリクエストなどもお待ちしています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。（ま）

E-mail：jyoho@csw-kawasaki.or.jp
TEL：044-739-8720 ／ FAX：044-739-8739

蔵書検索は「ふくみみ」で！
https://k-fukumimi.com/